

大妻女大家政 松山容子 ○高原仁美

目的：市販されているスカートやスラックス類の身体適合については、サイズの面では改善がみられる。しかし、それらを着用した状態ではひきつれやたるみ、脇縫い目線のよじれ等、型紙が着用者の体形に合っていないこと等を示す現象がみられ、型紙作製の面に問題が多いと思われる。そこで、本研究では、若い女性の体幹下半の平均的形状とその個体差を検討し、さらに、型紙設計への指針を得ようとした。

方法・若年女子25名を対象として、胴囲から大腿の中央位までの右半を非接触三次元計測法であるGRASP法により計測した。計測データから、横断面輪郭線を胴囲・腸稜・腹囲・腰囲・殿囲・股の高さ・大腿の各位置で描き、さらに横断面重台図・体表面展開図・シルエットを求め、それぞれの形状を解析した。

結果：①外包囲、つまり体幹下半を布地でせん断変形を起こすことなく覆うのに必要な周径は、腰囲（転子外側点を通る水平周径）よりも平均で約7%長く、最大で12%、最小で2%長かった。その理由は、各断面が部分的に腰囲断面よりも外周にはみ出すため、特に腹囲断面の前方へのはみ出しや殿部断面の後方へのはみ出しは全被験者で観察された。大腿部断面のはみ出しは、個人により前方・外側方・後方等様々である。②体表面展開図におけるウエストダーツは、量・長さともに後面が前面よりも大きい。これは、若年女子では、腹部が比較的平坦であり、また腰椎の前弯と殿部の突出が明瞭なためと思われる。③前面・側面・後面のシルエット形状とウエストダーツ量の間には有意な関連が認められたが、その程度はシルエットの角度などからダーツ量を推定できる程のものではない。